

【明治中期以降】

・明治24年(1891)に池畔に枝垂柳、堤には霧島 躑躅の植栽され、池水の浚渫が行われた。

(『奈良公園史』134頁下段12～136頁上段11)

・明治31年(1898)頃に五十二段が整備された。(踊場新設)

(北村信昭『奈良いまは昔』)



明治31年(1898)◇:画面左にマツの枝が見える。

明治期※

- ・五重塔は5層全てが見える。
- ・興福寺はマツ大木が見られ、五重塔の右に若草山が連なる。
- ・五十二段西側の法面に植栽が施されている。

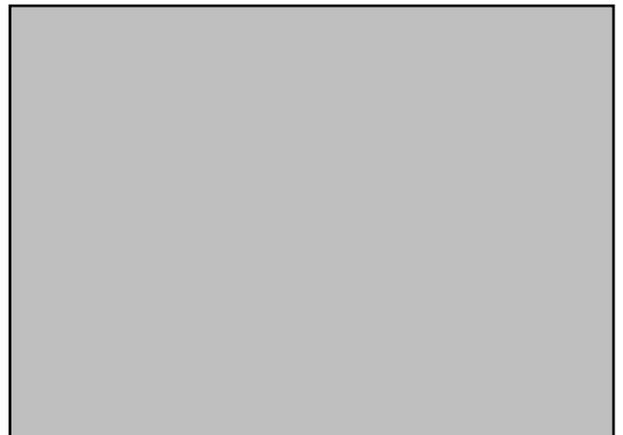


明治期※

- ・樹木を含め景観に大きな変化はない。
- ・東護岸に茶店が整備されている。



明治期※



明治期※

【大正～昭和初期】



大正4年(1915)◇ :五重塔は上部4層が見える。



年代不詳※ :五重塔は全てが見える。但し視点場の位置は高く、落葉期と思われる。



大正～昭和初期◇ :五重塔は上部3層が見える。

- ・五重塔の下層部が樹木で隠れ始めており、見えるのは上部3～4層。
- ・五十二段の階段の踊り場が、撤去改修されている。
- ・若草山は見えなくなったのか、構図に入れられていない。

【昭和20年代～】



昭和25年頃※ :五重塔は上部3層が見える。



昭和31年4月◎

昭和28年:五重塔は上部3層が見える。

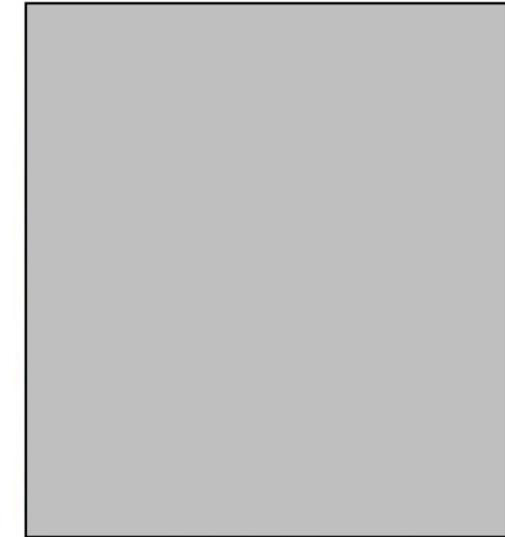
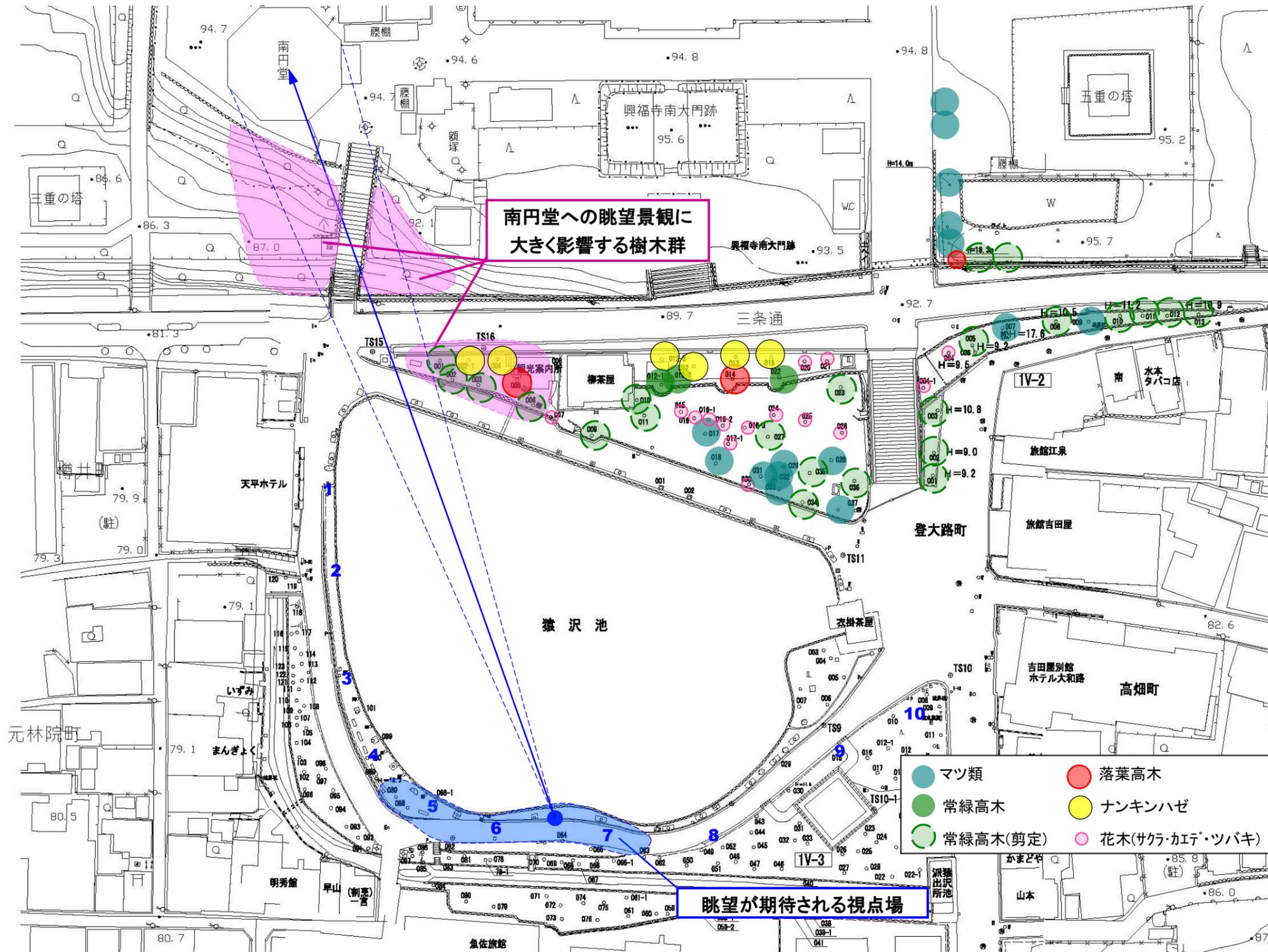


昭和40年頃※

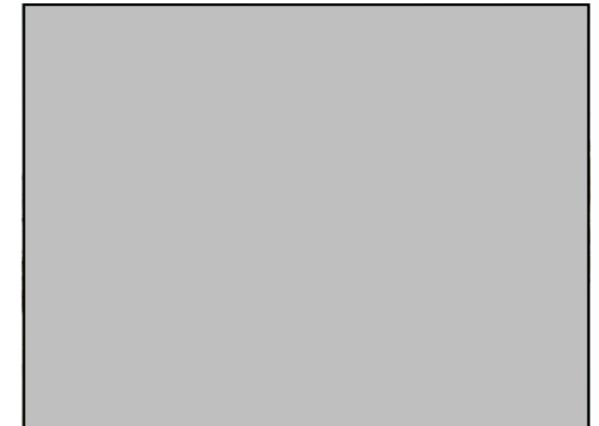
昭和40年頃※ :五重塔は上部3層が見える。

- ・五重塔の下層部が樹木で更に隠れており、見えるのは上部3層。
- ・五重塔が中心の縦構図の写真が多い。

5) 南円堂への眺望の検討



明治期：南円堂全体が見える。地点2〜3付近。
マツは透かし剪定されている



明治期：南円堂全体が見える。地点5付近。マツは透かし剪定されている



現在：南円堂の屋根が見える。地点6付近。

南円堂への眺望検討
視点場と景觀に影響する樹木群

3. 現況植栽の問題点・課題の整理

猿沢池地区の植栽には、以下の問題点や課題がある。

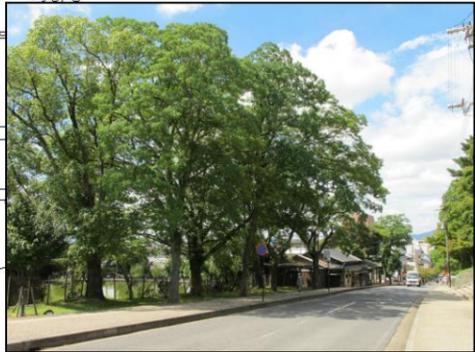
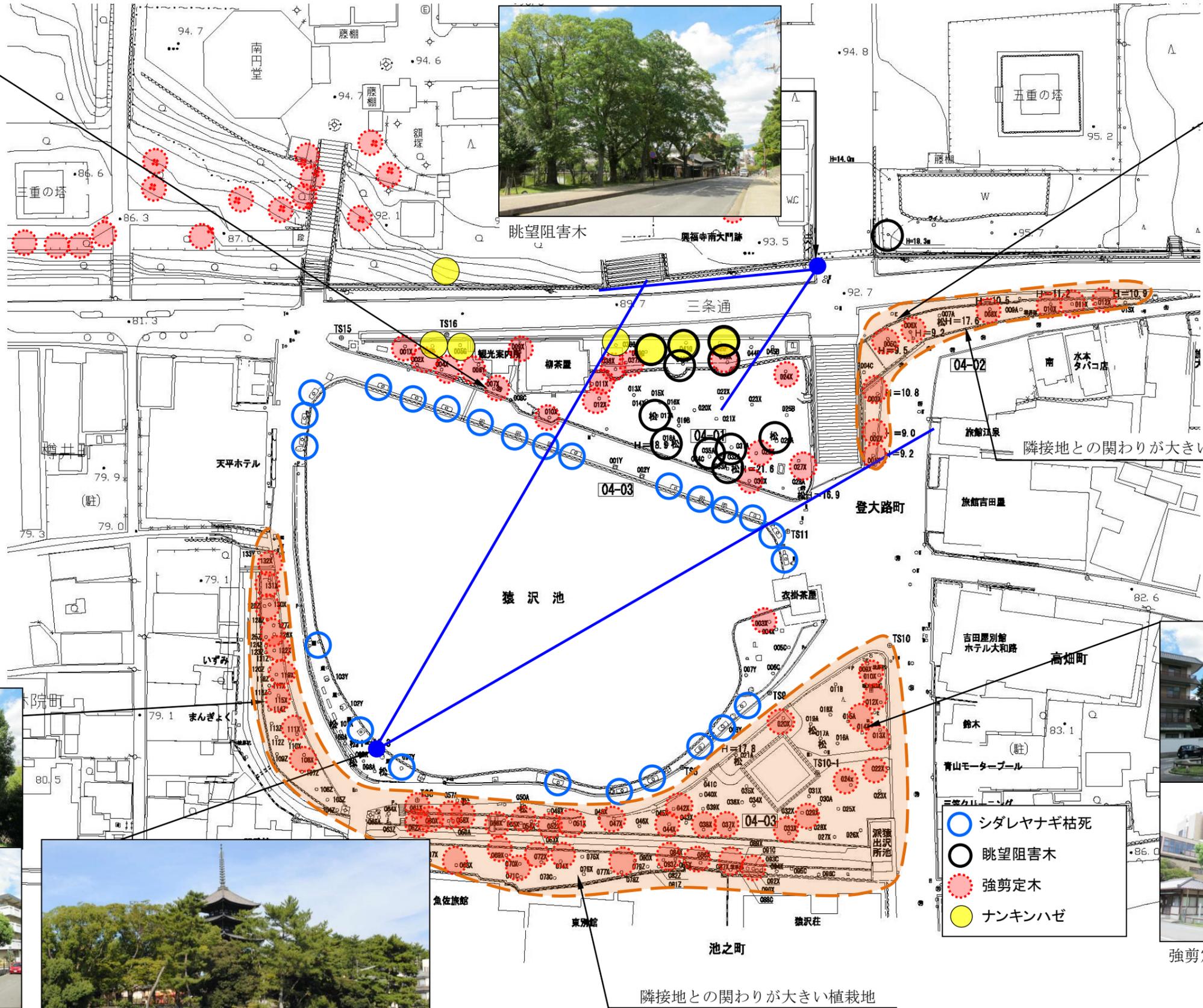
- ①歴史文化資産である池畔のシダレヤナギの枯死
- ②歴史的景観である五重塔への眺望の阻害（主に五十二段西植栽地）
- ③歴史上繰り返し植栽されていたサクラの喪失（猿沢池地区全体）
- ④マツ枯れによるマツの減少と後継樹不足（猿沢池地区全体）
- ⑤外周植栽地の樹木強剪定による景観悪化
- ⑥外周植栽の隣接地との関わり（再開発動向含む）
- ⑦三条通沿いのナンキンハゼの取り扱い



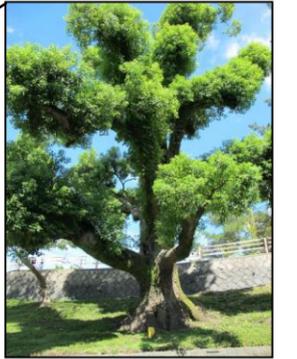
強剪定樹木



強剪定樹木



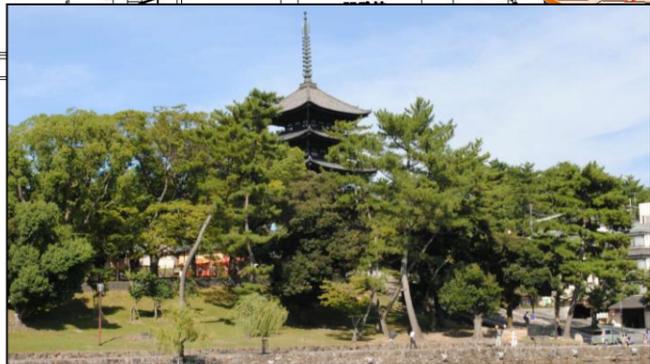
眺望阻害木



強剪定樹木



強剪定樹木



眺望阻害木

- シダレヤナギ枯死
- 眺望阻害木
- 強剪定樹木
- ナンキンハゼ

現況植栽の問題点・課題

4. 計画目標(案)

| | |
|------|---|
| 計画方針 | 猿沢池周辺の歴史的景観を保全する |
| 計画目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①猿沢池周辺のシダレヤナギ（衣掛柳含む）とクロマツを保全する ②猿沢池から五重塔、南円堂、中金堂（整備中）への眺望景観を保全する ③池周りに隣接する建築物との景観調和を図る。 ④猿沢池周辺植栽の歴史性に配慮する。 |
| 評価指標 | <ul style="list-style-type: none"> 1) クロマツやシダレヤナギが健全に生育・更新できていること 2) 五重塔の上三層の屋根が見えていること（参考資料参照） 3) 南円堂、中金堂（整備中）の屋根が見えていること 4) 隣接する近代的建築物が植栽で隠れていること |

●参考資料：目標の目安となる過去景観



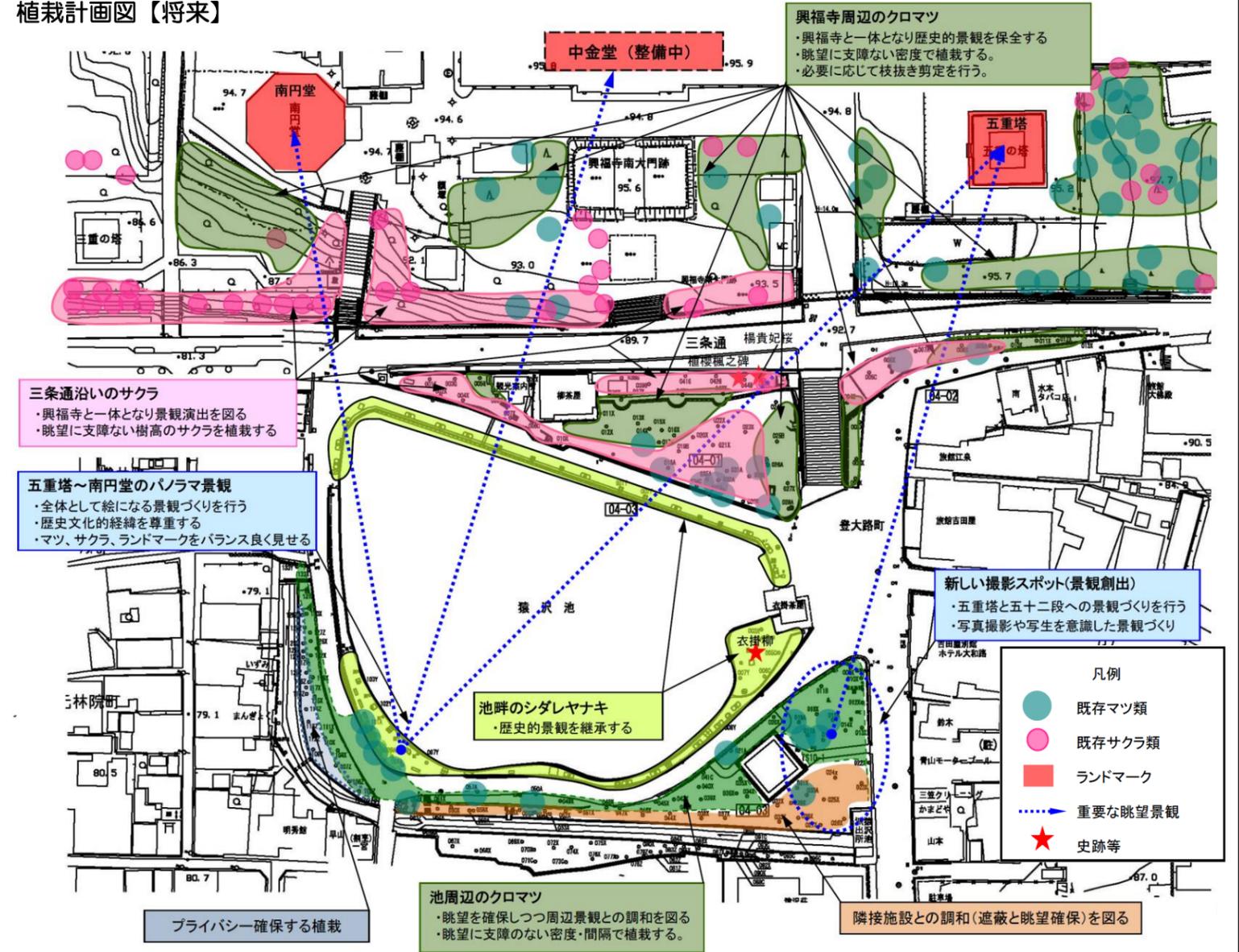
五重塔は上三～四層が見える。
マツを背景にサクラが見える

雑誌口絵「古都の春」
作者不詳・年代は大正期？



五重塔は上三層が見える。
昭和28年

植栽計画図【将来】

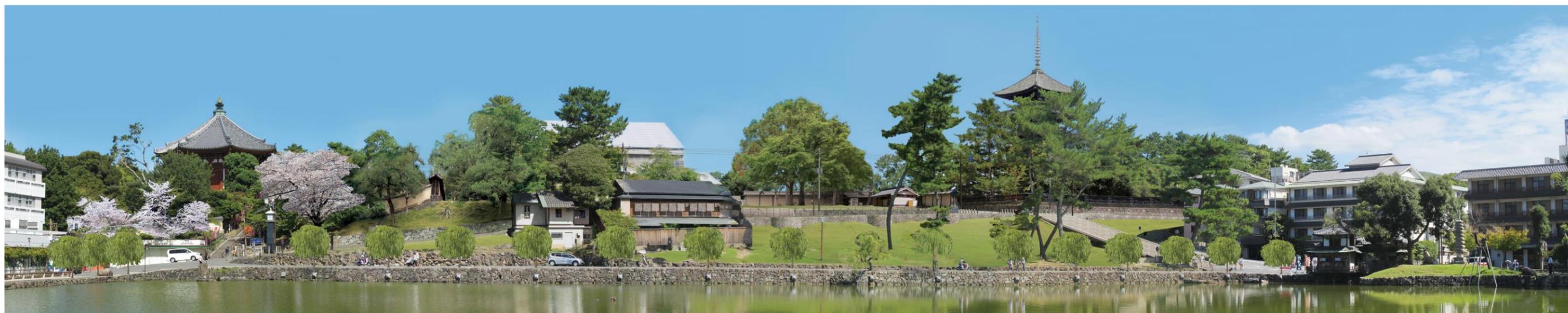


景観目標：五重塔～南円堂へのパノラマ景観【作業中】

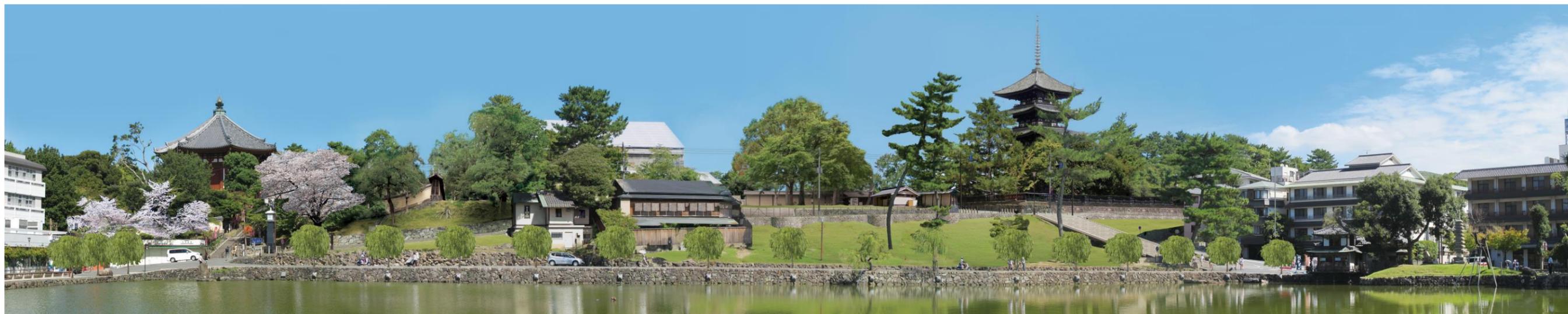
実施計画に向けての検討資料



現況景観： シダレヤナギは2本残るのみ。エリアA植栽地は、マツと常緑広葉樹が絡み、五重塔は殆ど見えない



整備検討-1： シダレヤナギ植替え実施し、公園区域内の広葉樹を全て伐採しマツのみ残したケース。 ⇒五重塔の正面にマツが絡み眺望確保が難しい。三条通の電柱、標識、自動車等が見える。



整備検討-2： 整備検討-1をベースにして、絡み合うマツを択抜し、透かし剪定を行ったケース。 ⇒五重塔は上3層がある程度見える。



整備検討－３： 整備検討－２をベースにして、マツとサクラを新たに植栽したケース。 ⇒当面の整備(案)



参考資料：公園区域西端部の強剪定実施前の景観 ⇒広葉樹を残した場合、強剪定樹木が回復すると南円堂や興福寺のサクラなどが見えなくなる。